

北海道拓殖鉄道 学習レポート

マニアも知らない遺構を発見!

多くの鉄道マニアが北海道拓殖鉄道(拓鉄)の線路跡をたどるチャレンジをしているが、瓜幕駅から先はあまり紹介されていない。昔の線路が今や畑に変わってしまい、場所がわかりにくくなっているためらしい。今回、瓜幕中1年生が拓鉄の学習をするにあたり、地域の拓鉄跡地を探し回っていた私は、瓜幕西23線付近で橋の跡を発見した。(写真)

この橋は、正式には瓜幕川橋梁(きょうりょう)と呼ばれ、四角い箱型トンネルのように見える。橋の上は草や木が茂り、線路の跡は全くわからない。昔この川の上を蒸気機関車が走っていたとは!

当時を知る堀川昌廣さん(78)によると、この橋の近辺は「石沢さんの沢」と呼ばれていた。沢とは谷間の川のこと、瓜幕川の両岸はまるで崖のようだ。谷間に石沢さんの家があり、昔は橋を渡る拓鉄がよく見えたのだろうか。

鹿追の新名所となるかもしれないこの場所へは、新田和也君の家の前をどこまでも東に進むとたどり着く。 Let's go!



拓鉄跡をたどって

去年、高杉登志雄先生は非常に熱心に拓鉄について調べていた。夏休みのある夕暮れ時、「ちょっと行ってきます」と愛車ギャランに飛び乗り、どこかへ出かけてしまった。1時間もしたのだろうか。「ついに東瓜幕駅があった場所がわかったぞ!」とまるで少年のように興奮して学校に戻ってきたのである。ハーフパンツで探検に出かけたため、膝から下のあちこちを蚊にさされ、「かゆい、かゆい」を連発しながら、発見の苦労話をうれしそうに語る高杉氏。私は話に耳を傾けながら、内心「そんなに楽しいことなのかなあ」と思っていた。

今年、拓鉄について自分なりにいろいろ調べるとやっぱり楽しかった。やっと高杉先生の気持ちがわかった。自分の足で歩き回り、何かを見つけた時は最高である。拓鉄の跡をたどるおもしろさ、病みつきになりそうである。

開業100年記念イベント

5年後の2018年は、拓鉄が開業してちょうど100年になる。そこで、拓鉄を語り継ぐため記念イベントを開催してはどうだろう。例えば、昔懐かしい汽笛を鳴らしたり、ミニS1やトロッコを走らせる。もし、廃線跡を歩くツアーを催したら、マニアが集まるかもしれない。1年を通して多彩なお祭りが開かれる鹿追なら、きっと何かできるはずだ!



私も昔、拓鉄に乗って
新得経由で清水の高
校へ通っていました